

自分の内面と向き合うために絵を描く――

現代アーティスト やまなかともろうさん(26)

須木下田出身。小林高校から大分県立芸術文化短期大へ進学し、卒業後アーティスト活動を開始。現在は福岡を拠点に制作を行っている。

「伝統を大事にしながら新しい表現を模索したい」。そう話すのは、現代アーティストとして活躍する「やまなかともろう」さん。やまなかさんは、日本古来の色彩や伝統工芸品の制作手法を引用しつつ、現代のマスキングワークなどの技法も組み合わせた作品『『うるかみ』シリーズ』を制作。東京などで個展を開催し、注目を集めている。

「幼い頃から芸術の世界に入ると口にしてきた」。幼少期からノートの端に絵を描き続けていたやまなかさん。芸術の道に進むことを周囲に反対されたことはないという。

「人に恵まれ今の自分がいる。知り合いの多くが反対されているので」と笑う。美しい髪が特徴的な「うるかみ」は、人の曲線美や優しさ、悲哀などを髪の毛の流れと表情で表現。

「美しいとは、人の優しさとは何だろう」、そうした疑問に絵を描きながら自己問答している。

自作の大きな髪を使用し描く、特徴的な制作風景が海外メディアにも取り上げられるなど、『うるかみ』シリーズへの注目が世界で広がる一方、やまなかさんは、全く異なる印象のイラストレーション的の作品も制作。直木賞作家が書き下ろした歴史小説のカバー装画のイラストに採用されるなど、幅広い分野で活躍する。

「2つのスタイルでの制作は大変だが、両方してこそ自分を表現できるし、自分の内面と向き合うには両方する必要がある」という。

「いずれは小林にギャラリーを作り、公開制作を子どもたちに見てほしい」。目指す未来を語る若き芸術家は、今日も自己の内面に向き合い表現する。

「展示会の決定や作品の購入も人づてが多い。人のおかげで自分が生きている」。そう感じたやまなかさんは「うるかみ 縁」を制作。人と人とのつながりを途切れそうで途切れない髪で表現した

イラストレーション的作品では、仏画や浮世絵的表現で人の欲望や精神的美しさを表す

小林
小人
こばやしびと
Vol.122



▲やまなかさんのInstagramでは、作品の制作時の様子などを見ることができます

